

平成19年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
16	臨床薬学 (臨床薬学部門)	No. 1 3枚		

I. 下記の患者プロフィールを用いて、問1～問5に対する正しい番号を一つ選び、解答欄に記入しなさい。(10点)

患者名：白金 五郎（男性）・52歳 入院日：平成18年6月6日 身長：170cm 体重：65kg
 主訴：右足の腫脹と痛み アレルギー：（薬物）なし（食物）なし
 既往歴：なし
 現病歴：右足ふくらはぎ周囲の発赤と腫脹、痛みのため、近医から紹介されて当院に緊急入院となった。
 右足は特に打撲も外傷もないのだが、「夜のうちに腫れあがってしまった」と話している。痛みがあったため、近医を受診する前にOTC鎮痛薬を購入して服用した。この一～二ヶ月間、運動後に軽度息切れを感じていたが、最近、夜間の息切れがひどくなった。
 入院時のバイタルサイン：血圧125/70mmHg、脈拍数78/分（リズムは整）、体温37.2℃
 入院時の主な所見：息切れ（+）、頸静脈の怒張（+）、ふくらはぎ周囲（右足39.5cm/左足38cm）、右大腿部の腫脹（++）
 入院時処方：フロセミド（40mg）1錠 1日1回 朝食後 14日分
 ワルファリンカリウム 10mg 1日1回 3日間連続
 ヘパリンナトリウム 15,000単位/1L生理食塩液 24時間静脈内持続注入

問1. 推測される疾患名として、正しいものの組合せはどれか。

- a 肺血栓塞栓症
- b 深部静脈血栓症
- c 蜂窩織炎
- d うっ血性心不全
- e 心房細動

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, e) 5 (d, e)

解答

問2. ヘパリンの効果をモニタリングする方法として、正しいものはどれか。

- 1 国際標準化プロトロンビン時間比（INR）
- 2 活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）
- 3 血小板数
- 4 血小板凝集能
- 5 ヘパリンの血中濃度

解答

問3. ヘパリン過剰投与に対する対応として、正しいものはどれか。

- 1 ビタミンK₁の投与
- 2 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢの投与
- 3 硫酸プロタミンの投与
- 4 アセチルシステインの投与
- 5 イオン交換樹脂の投与

解答

問4. ワルファリンに関する記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a アンチトロンビンⅢと結合して血液凝固因子の活性化を阻害し、抗凝固作用を示す。
- b 肝臓でのビタミンE依存性血液凝固因子の生合成を抑制し、抗血栓作用を発揮する。
- c 抗凝固作用を完全に示すまでに、3～4日間を要する。
- d 半減期が短く、即効性である。
- e チトクロームP450酵素の変異があると、薬理活性を有するS体の代謝能が低下する。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, e) 5 (d, e)

解答

採点

[]

平成19年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
16	臨床薬学 (臨床薬学部門)	No. 2 3枚		

問5. 薬剤師が入院時インタビューで本患者に確認すべきことで、正しいものの組合せはどれか。

- a 定期的に行っている運動の種類と運動量について
b 動悸と胸痛の有無について
c 入院中急変時の連絡者と連絡先について
d OTC 鎮痛薬の名称と、その OTC 鎮痛薬の入院前の服薬状況について
e セントジョーンズ・ワートを含む健康食品の日常的摂取の有無について
1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, e) 5 (d, e)

解答

II. 次の処方AからEについて、予想される疾患名について正しいものを一つ選び、番号を解答欄に記入しなさい。(10点)

処方A

テオフィリン顆粒 (50%) 0.4g 1日2回 朝食後と就寝前 (14日分)
塩酸プロカテロール顆粒 0.5g 1日2回 朝食後と就寝前 (14日分)
プロピオン酸フルチカゾンデイスカス (50 μ g) 1個 1日2回 朝・夕に吸入
1 肺気腫 2 肺結核 3 気管支喘息 4 気管支拡張症 5 マイコプラズマ肺炎

解答

処方B

エナラプリル (2.5mg) 1錠 1日1回 朝食後
球形吸着炭 6g 1日3回 毎食間
ポリスチレンスルホン酸カルシウム 5g 1日1回 夕食後 (14日分)
1 尿路結石 2 慢性腎不全 3 前立腺肥大症 4 痛風 5 原発性ヘモクロマトーシス

解答

処方C

ランソプラゾール (30mg) 2カプセル 1日2回 朝・夕の食後
アモキシシリン (250mg) 6カプセル 1日2回 朝・夕の食後
クラリスロマイシン (200mg) 2錠 1日2回 朝・夕の食後 (7日分)
1 逆流性食道炎 2 慢性膵炎 3 慢性胃炎 4 胃潰瘍 5 上部消化管出血

解答

処方D

フロセミド (40mg) 1錠 1日1回 朝食後
プレドニゾロン (5mg) 6錠 1日3回 毎食後
ジピリダモール (100mg) 3錠 1日3回 毎食後
シンバスタチン (5mg) 1錠 1日1回 夕食後 (14日分)
1 ネフローゼ症候群 2 急性腎不全 3 肝硬変 4 狭心症 5 再生不良性貧血

解答

処方E

レボドパ・塩酸ベンセラジド 6錠 1日3回 毎食後
スルピリド (50mg) 3錠 1日3回 毎食後
メシル酸プロモクリプチン (2.5mg) 3錠 1日3回 毎食後 (14日分)
1 うつ病 2 アルツハイマー症 3 不眠症 4 統合失調症 5 パーキンソン病

解答

採
点

[]

平成19年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
16	臨床薬学 (臨床薬学部門)	No.3 3枚		

III. 以下の医薬品を服用中の患者に対する服薬指導内容として、正しいものは○、誤っているものは×を解答欄に記入しなさい。(10点)

医薬品	服薬指導内容	
(1) グリクラジド	食事をみだりに減じたり、抜いたりすると、低血糖を引き起こしやすいので、注意してください。	解答
(2) アカルボース	脱力感、高度の空腹感、発汗、動悸、振戦、集中力の低下などが起こったら、飲食が可能な場合は急いでジュース、キャンディーなどを摂取してください。	解答
(3) オメプラゾール	錠剤を噛んだり砕いたりして飲まないようにしてください。症状が軽快しても勝手に服薬を中止しないで、医師の指示した治療期間を守ってください。	解答
(4) フロセミド	光線過敏症が起こることがありますので、過度の日光を浴びないように注意してください。	解答
(5) マレイン酸エナラプリル	めまいやふらつきが起こることがありますので、自動車の運転には十分、気をつけてください。	解答
(6) プロピオン酸ベクロメタゾン (定量噴霧薬)	喘息発作時に、口腔内に一回噴霧してください。息苦しさが改善しない場合は、もう一回、口腔内にスプレーしてください。	解答
(7) 塩酸チクロピジン	歯肉や皮膚の出血が止まりにくくなったら、直ちに受診してください。	解答
(8) アレンドロン酸ナトリウム	起床時にコップ一杯の水で服用し、朝食まで30分以上の時間をあけるようにしてください。	解答
(9) シンバスタチン	顔面のほてりを避けるため、食後すぐに服用してください。	解答
(10) ワルファリンカリウム	カリウムを多く含んでいる食品を一度に大量に食べないで下さい。	解答

採点	
----	--

[]